

第 5 回内分泌攪乱化学物質問題に関する
国際シンポジウム
リーフレット

(当日配付)

第5回

内分泌攪乱化学物質問題に関する 国際シンポジウム

▶ 2002年11月26日(火)～28日(木)

▶ 広島国際会議場

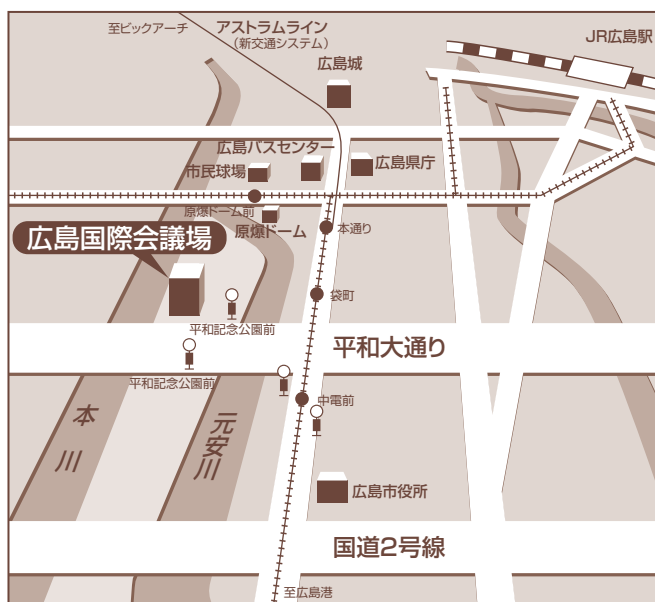
■主催 環境省 ■後援 広島県 広島市

■協力 環境ホルモン学会(正式名：日本内分泌攪乱化学物質学会)

International Symposium on Environmental Endocrine Disrupters 2002

会場周辺地図

map



【会期】2002年11月26日(火)～11月28日(木)

広島国際会議場

〒730-0811 広島市中区中島町1-5(平和記念公園内)
TEL: 082-242-7777 FAX: 082-242-8010

【交通のご案内】

- JR広島駅から(約20分)
(路線バス)→平和記念公園前→広島国際会議場
(市内電車)→袋町(徒歩5分)→広島国際会議場
(市内電車)→原爆ドーム前(徒歩5分)→広島国際会議場
- 広島空港から(約65分)
(リムジンバス)→広島バスセンター(徒歩5分)→広島国際会議場
- 広島西飛行場から(約20分)
(路線バス)→中電前(徒歩5分)→広島国際会議場
- 広島港(宇品港)から(約30分)
(路線バス)→中電前(徒歩5分)→広島国際会議場
(市内電車)→袋町(徒歩5分)→広島国際会議場

参加申し込み・お問合せ

株式会社コングレ内

「第5回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」運営事務局

〒102-8481 東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館ビル 6F

TEL: 03-3263-5394 FAX: 03-5216-3115

E-mail: eed02@congre.co.jp

シンポジウムの内容に関するお問合せ

環境省総合環境政策局環境保健部環境安全課

〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2

TEL: 03-3581-3351(内線6354) FAX: 03-3580-3596

E-mail: ehs@env.go.jp

ポスターセッションに対するご応募・お問合せ

環境ホルモン学会(正式名：日本内分泌攪乱化学物質学会)事務局

〒305-0061 茨城県つくば市稲荷前 24-1-202

TEL: 0298-59-0818 FAX: 0298-59-0851

E-mail: jsedr@mb.infoweb.ne.jp

プログラム

Program

■広島国際会議場

11/26(火) 一般向け プログラム	午後	◎開会挨拶 ・環境大臣挨拶 ・来賓挨拶 ●特別講演 ●取組の現状 ●パネルディスカッション	
	夜	(レセプション)	
11/27(水) 専門家向け プログラム	午前	セッション1	「免疫影響」
	午後	セッション2	「カエル」
		セッション3 ディスカッション	「甲状腺」 「カエル・甲状腺」
	夜	ナイトセッション	「性分化」
11/28(木) 専門家向け プログラム	午前	セッション4	「曝露評価・リスク評価」
	午後	セッション5 ディスカッション ◎閉会挨拶	「子供の健康」 「子供の健康・リスク評価」

※学会主催のポスター発表会を同時開催 (11/25(月)~11/28(木))

招待講師

Speakers

海外講師

Richard A. Becker	American Chemistry Council, USA
Bengt-Erik Bengtsson	EU, Sweden
Hugo O. Besedovsky	Philipps University Marburg, Germany
Sheue-yann Cheng	NIH, USA
Barbara Demeneix	Museum National d'Histoire Naturelle, France
Robert J. Denver	University of Michigan, USA
Elizabeth Guillelte	University of Florida, USA
Niels Jorgensen	Copenhagen University Hospital, Denmark
Rovert Kavlock	EPA, USA
Herman B. W. M. Koeter	OECD
Andreas Kortenkamp	University of London, UK
Henk Van Loveren	National Institute of Public Health and the Environment, The Netherlands
John A. McLachlan	Tulane University, USA
Tim Meredith	WHO
John Myers	Alton Jones Foundation, USA
James G. Pfaus	Concordia University, Canada
Frederik S. Vom Saal	University of Missouri-Columbia, USA
Jacques Samarut	Ecole Normale Supérieure de Lyon, France
Margret Schlumpf	University of Zurich, Switzerland
William S. Stokes	ICCVAM, USA
Stuart A. Tobet	UMASS Medical School, USA
Jorma Toppari	University of Turku, Finland
Ming-Jer Tsai	Baylor College of Medicine, USA
Shi Yun-Bo	NIH, USA

国内講師

井口 泰泉	岡崎国立共同研究機構
稲寺 秀邦	東京大学
岩本 公宏	三井化学株式会社
岩本 晃明	聖マリアンナ医科大学
遠藤 恵子	広島市立山本小学校
坂部 貢	社団法人北里研究所
崎田 裕子	ジャーナリスト・環境カウンセラー
佐久間康夫	日本医科大学
妹尾 久雄	名古屋大学環境医学研究所
田辺 信介	愛媛大学
堤 治	東京大学
長濱 嘉孝	岡崎国立共同研究機構
野原 恵子	独立行政法人国立環境研究所
平原 史樹	横浜市立大学
森 千里	千葉大学
森田 昌敏	独立行政法人国立環境研究所
矢尾板芳郎	広島大学
吉里 勝利	広島大学
鷺谷いづみ	東京大学

※現在交渉中の講師を含む。

■一般向けプログラムの概要

特別講演	化学物質による子供への健康影響の研究に従事され、我が国の生殖医療のパイオニアとしても知られる東京大学医学部産科婦人科学教室・堤教授にご講演いただきます。
取組の現状	国内外で取り組まれている内分泌攪乱化学物質問題について、その対策の現状と動向についてご紹介いただきます。
パネルディスカッション	各方面の関係者が一堂に会し、子供たちへの環境教育を中心に内分泌攪乱化学物質問題等に関する環境リスクコミュニケーションのあり方について意見交換を行い、問題の理解を深める機会とします。

■専門家向けプログラムの概要

セッション1 免疫影響	内分泌攪乱作用が疑われる化学物質は免疫系にも悪影響を及ぼすことが指摘されていますが、その作用メカニズムについては未解明な点が多く残されています。本セッションでは、内分泌攪乱作用が疑われる化学物質の免疫系への影響やその作用メカニズムについてご紹介いただきます。
セッション2 カエル	環境指標生物として市民から研究者まで多くの人々に注目されているカエルは、内分泌攪乱作用を検出するのに適した生物として世界中で研究されています。それらの最新の研究成果についてご紹介いただきます。
セッション3 甲状腺	甲状腺ホルモンは哺乳類をはじめとする生物の成長・代謝において重要な働きをしていますが、化学物質による甲状腺ホルモンへの攪乱作用が報告されています。本セッションでは、その作用機序などに関する最新の知見をご紹介いただきます。
ディスカッション カエル・甲状腺	化学物質による甲状腺ホルモン攪乱は、カエルからヒトまで多くの生物の成長・代謝に重大な影響を及ぼすことが懸念されています。本ディスカッションは甲状腺を共通のテーマとして、カエルと哺乳類の研究者による意見交換の場とします。
ナイトセッション 性分化	生殖内分泌や情動行動の調節に関わる脳内の一部の部位に見られる性差は、遺伝的な性別とは独立して、個体発生の特定の時期における性ホルモンの作用により生じます。この過程における化学物質による性ホルモンの攪乱の可能性等を評価するために、性分化に関わる最新の知見をご紹介いただきます。
セッション4 曝露評価・リスク評価	複数の化学物質による複合影響等、新たな曝露経路やリスク評価の考え方についてご紹介いただきます。
セッション5 子供の健康	一般的に化学物質に対する感受性が成人と比較して高いとされる子供あるいは胎児の健康への影響を中心に、生殖機能健康調査を含めた最近の知見をご紹介いただきます。
ディスカッション 子供の健康・リスク評価	現在、国内外で注目されている「化学物質による子供の健康影響」について、子供あるいは胎児を基軸としたリスク評価の方法論を中心に、専門的な視点からご議論いただきます。
ポスターセッション	環境ホルモン学会（正式名：日本内分泌攪乱化学物質学会）主催により、ポスター発表が行われます。（11月25日より）ポスターでの発表を希望する方は、環境ホルモン学会（正式名：日本内分泌攪乱化学物質学会）事務局までお問い合わせください。 連絡先：TEL：0298- 59- 0818 FAX：0298- 59- 0851



内分泌攪乱化学物質については、将来にわたって人の健康や生態系への影響が懸念されている一方、科学的には未解明な点が多く残されており、環境保全上重大な課題と考えています。このため、環境省では環境実態調査や有害性評価等を進めるとともに、国際的な連携の下に諸外国や国際機関等との情報交換を進めています。

この一環として、平成10年度から毎年「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」を開催しており、世界各国から第一線の研究者のご参加を得て、質の高い議論が活発に展開され、国内外から高い評価をいただいております。

本シンポジウムの主なねらいは、

- ・我が国をはじめ、世界各国の内分泌攪乱化学物質問題への取組状況についての情報を共有すること
- ・国際的な連携・協調により進められている内分泌攪乱化学物質問題について、これからの研究の方向性について議論すること
- ・化学物質問題を身近な問題として対応するために、各方面の関係者により意見交換を行うことの3点です。

今年度は、「子供への影響」に着目して、東京大学医学部産科婦人科学教室の堤教授による特別講演及びセッションを予定しています。

また、PRTR法（化学物質排出把握管理促進法）に基づくデータの公表が本年末の予定であることから、「環境リスクコミュニケーション」についてパネルディスカッションを行うこととしております。

この国際シンポジウムが、世界各国の科学者、行政、産業界、そして国民にとって意義のある会議となることを希望しております。是非とも多くの方々のご参加下さるようお願い申し上げます。

2002年 8 月

環境大臣 大木 浩

国際シンポジウムのプログラムについて

本プログラムは、一般向けプログラム、専門家向けプログラムの2部構成となっています。

26日は、国民に幅広く参加いただくためのプログラムとして、特別講演、内分泌攪乱化学物質問題に対する国内外における取組の現状の報告及びパネルディスカッションを行います。

27日、28日の2日間は、研究者を対象としたプログラムで、専門的な内容について科学的な議論を深めることを目的としたセッションを開催するとともにディスカッションを行います。

参加申し込み先

参加を希望する方は、氏名、所属、住所、電話、FAX番号、E-mailアドレス、参加希望日を明記の上、E-mailかFAX、もしくはハガキで下記運営事務局（株式会社コングレ内）宛にお申込みください。参加費は無料です。

運営事務局

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル 6F 株式会社コングレ内
「第5回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」運営事務局
TEL: 03-3263-5394 FAX: 03-5216-3115 E-mail: eed02@congre.co.jp

締め切り

平成14年11月10日（日）必着（申込み多数の場合は、先着順となります。）
＊参加証の発送は、11月以降となります。

使用言語

日本語・英語（同時通訳あり）